

出穂早く高温傾向、刈り取り早まる予測

刈り取りに向けた準備を早期に行いましょう！

1 気象経過と生育状況

【気象経過】

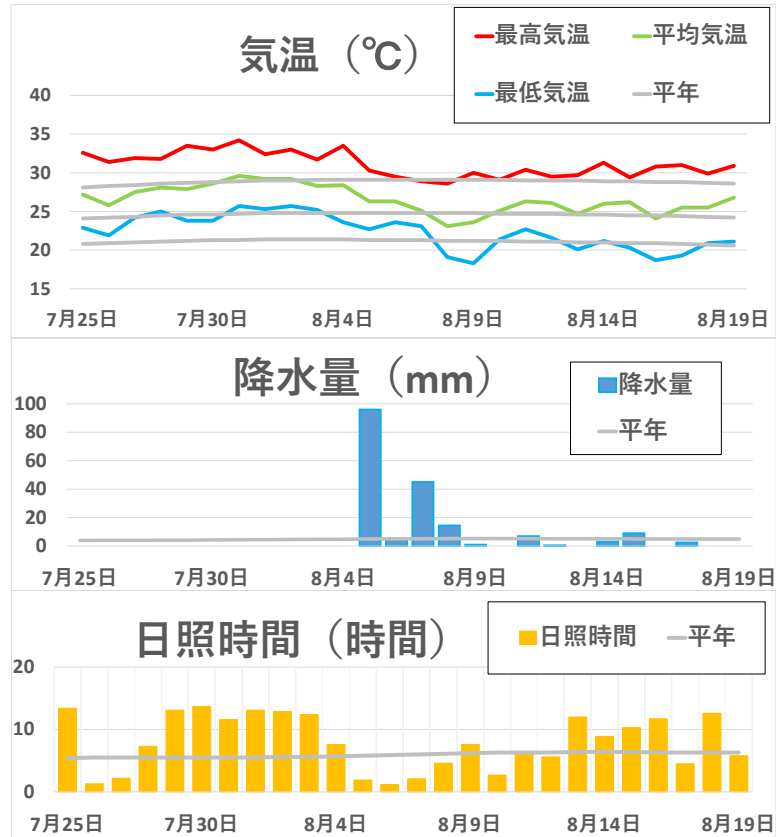
気温は、平年より高く推移しました。8/1～8/19の平均気温は平年差+1.4℃で経過しました。

降水量は、極端な推移となりました。7/17～8/4までの19日間無降雨だった一方で、5日96mm、7日45mmと大雨となりました。

日照時間は、平年よりも多い日が続きました。8/1～8/19までの積算日照時間は平年差+25時間の144時間でした。

仙台管区気象台の1ヶ月予報では、向こう1ヶ月の気温は高く、降水量は平年並み、日照時間は平年並みまたは多いと見込まれています。

これまでの気象経過（アメダスポイント：能代）



【生育状況】

8月20日現在の管内水稻定点調査ほ（9地点、品種：あきたこまちR）の生育は、穂数が平年より少なく、1穂着粒数が平年より多く、㎡当たり着粒数は平年より少なくなりました。

本年は茎数が不足傾向で推移したため、穂数が平年よりも少なくなりました。このため、1穂着粒数は平年より多くなったものの、㎡あたり着粒数はやや少なくなりました。確保した籾の充実を図るための水管理に努めましょう（次ページを参考）。

なお、管内の出穂期は7月30日（平年差－2日）でした。出穂が早まり、高温傾向が見込まれることから、成熟期が早まることが予想されます。

○定点調査結果（8月20日）

	穂数 (本/㎡)	葉数 (葉)	着粒数		出穂期 (月/日)
			(粒/穂)	(粒/㎡)	
本年	395	13.1	81.5	32,199	7/29
平年	440	12.9	76.8	33,424	8/1
前年	416	13.2	76.4	31,649	7/30
平年比較	90%	+0.2	106%	96%	－3日
前年比較	95%	－0.1	107%	102%	－1日

※平年は過去10力年の平均値

2 主要病害虫の防除対策

【斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）】

- 病害虫防除所から8月7日に防除対策情報が発表され、水田内にノビエやカヤツリグサ科雑草が多く発生しているほ場での発生量が多い傾向です。
斑点米カメムシ類は登熟期前半に玄米の頂部を加害し、登熟期後半は割れ粳の増加に伴い、側部を加害します。そのため、今後は2回目の防除が重要となります。
出穂期24日後頃に、畦畔を含めたほ場全体にエクシード剤またはキラップ剤を必ず散布してください。
- 近隣に水稻以外の作物（野菜等）がある場合や養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前に情報交換を密にし、散布作業を実施してください。
- 畦畔・雑草地等の除草は、水稻の収穫2週間前以降に行ってください。

3 登熟の向上を図る水管理

- 登熟の向上を図るため、出穂30日後までは間断かん水を実施し、土壌水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。
- 最高気温が30℃以上になる日は、用水を確保できる地域ではかけ流しかん水、それ以外の地域では飽水管理を行い、高温による根の機能減退を防止します。
- フェーン現象等で乾燥した風が強く吹く日は、湛水状態を保つことで、蒸散による稲体の消耗を軽減します。
- 早期に落水すると、根の機能が低下し登熟が妨げられ、収量、品質、食味が低下する場合があります。落水時期は、出穂30日後頃を目安としますが、登熟の進行やほ場の作業性等を考慮してください。
- ★カドミウム含有米の発生が懸念される地域で「あきたこまちR」以外を作付けした場合は、出穂3週間後まで湛水管理を厳守し、カドミウムの吸収を抑制します。

4 刈取適期の判断

積算気温を参考に、各ほ場の粳の黄化程度を必ず確認し、刈り遅れによる品質低下を防止しましょう。

ほ場の観察と並行して、収穫機や乾燥機のメンテナンスも早期に行い、スムーズに収穫作業に入れるようにしましょう。

出穂期	積算気温到達日				
	950℃	1000℃	1050℃	1100℃	1150℃
7月27日	9月3日	9月6日	9月8日	9月10日	9月12日
7月30日	9月7日	9月9日	9月13日	9月11日	9月16日
8月2日	9月10日	9月13日	9月15日	9月18日	9月20日
8月5日	9月14日	9月17日	9月19日	9月22日	9月24日
8月8日	9月18日	9月21日	9月23日	9月26日	9月29日
8月11日	9月22日	9月25日	9月27日	10月1日	10月3日

※8月20日以降のデータは平年値を使用。※管内の出穂盛期は7月30日。

【刈取適期の判定基準】

※刈取適期は品種や栽培方法によって異なります。

- ①粳の熟色
葉や穂首が緑色であっても粳の黄化程度が90%（黄色＋黄白色の粳数の割合）の頃
※熟度の進展は緑（青）色→黄色→黄白色と進む
- ②出穂後の積算気温（出穂期翌日から日平均気温を積算した値。上表参考）
早生種：950～1,050℃（1,100℃を超えると胴割粒増加）
中晩生種：1,050～1,150℃（1,200℃を超えると胴割粒増加）

不明な点がありましたら、山本地域振興局農林部農業振興普及課（Tel.52-1241）までご連絡ください。